

衣の着付けも数名の生徒たちにより実現し、最後の生徒たちの合唱『時の旅人』の披露で、ワシントンでの最後の夜にふさわしい、また素晴らしいJAPAN NIGHT PARTYになったと、関係者一同、疲れの中に心地よい満足感が漂った夜となった。ホストファミリーもさぞ喜んで生徒たちと一緒に帰途に着かれたのでは。

翌朝は、いよいよホストファミリーとの別れの朝。生徒たちにはホームステイが無事に終わったという安堵感と別れという淋しさが交錯している様子。最後の別れを惜しみながら、写真撮影、涙を流しながら握手したりハグしたり。特にファミリーの幼い子どもたちが泣いているのが印象的だった。やっと慣れてきた頃に別れ…つらそうな生徒の顔もあちらこちらで見受けられた。

ホストファミリーに見送られ、研修の舞台もいよいよ憧れのニューヨークへ。

ニューヨークでは2日間に亘りメトロポリタン美術館・エンパイアステートビル・自由の女神像・国連本部などを見学し、最後の夜はブロードウェイでの本場ミュージカル鑑賞と、まさに夢のような時を過ごさせていただいた。ただ、我々が帰国する日の朝には、エンパイアステートビルの前で銃の乱射事件があり、そういった危険とも背中合わせだったということ、昨年と同様に“想定外は起こりうる”ということ、そのために各所で必ず行われていたセキュリティチェックの必要性も米国の一面として、改めて納得させられる出来事であった。

そして9日間滞在した米国ともいよいよお別れするとき。夢のような日々から現実が待っている八百津へと、徐々に頭の中を切り換えながら出国の手続きを済ませ、飛行機を乗り換え、デトロイトからセントレアに。生徒たちも初めは賑やかであったが、次第に睡魔に襲われたらしく静かに日本に到着。空港では、大変お世話になった添乗員の泉さんに感謝とお別れのあいさつをし、バスにてファミリーセンターに。解団式には保護者を始め大勢の方に出迎えをいただき、感謝、感謝。

何とか19人プラス4人、全員無事に帰って来ました。

このような機会を与えて下さった吉田茂様には深く感謝しますとともに、今後もこの事業が継続され、八百津町の子どもたちが研修を通じて国際感覚を醸成し、当町出身の杉原千畝氏の功績の偉大さを再認識し、平和の尊さを正しく理解することを願ってやみません。また、八百津町長を始め関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。

